

〈女性隊員は災害時に大きな役割を担うと思いますが、普段から心掛けている事はありますか?〉

- ・非常口やAEDの表示に目が行くようになり、場所の確認をしています。
- ・隊員の中には、普段から車に救急キットを準備している人もいます。
- ・災害時のトリアージは、女性消防隊でも軽症者の判断はできますが、意識がない重症者は医師の指示により判断のサポートを行います。
- ・女性消防隊は、女性目線での避難所運営や、応急手当の実施などで人命救助の一助になれると感じています。



〈広報活動や火災予防活動で、どのような事に注力されていますか?〉

- ・こども園などの防火教室では、紙芝居をしたり、シートで煙を表現したりしてわかりやすく伝えていきます。
- ・普通救命講習会では年齢や性別に合わせて、力の入れ方など指導方法を変えています。
- ・救命の動作は煩雑で難しいと感じることがあるので、なるべく「できなかった」という印象を残さず、できたことに対してプラスの印象が残るように心掛けています。
- ・普通救命講習会は、2〜3年に1度受講してほしいと思っています。消防署でも行っていますが、会社や地域でも希望があれば出張して実施しています。

〈新規入隊者確保への勧奨について、経験や助言はありますか?〉

- ・活動については強制ではないので、仕事や家事の合間に活動できる方がいれば嬉しいです。
- ・入隊条件は18歳以上で上限はありません。菊川市は平均年齢が低いですが、他市ではシニア世代の活躍もあります。
- ・入隊してよかったことは、応急手当普及員や指導員の資格、教材費も無料で勉強できて、防災の知識が身につきます。

〈家事や仕事と消防隊活動を両立する為の苦労はありますか。また、家族の理解は?〉

- ・土日のイベントや式典、平日夜に行う定例会や講習等の活動は、家族の理解が必要ですが、活動への参加は強制でないため、あまり苦労は感じていません。
- ・定例会は、子連れでの参加もできることになっていきます。
- ・主人や両親は、本人の興味があれば良い事であると行って理解してくれています。
- ・近所では、女性消防隊へ入隊したことは良い印象でした。

